

第10回FD研修会報告書

2011.9

FD委員会

金沢学院短期大学

目 次

開催にあたって	学長 槻木 裕	1
I. 学生相談の連携と協働 ―ネットワーク支援の事例―		
	金沢大学保健管理センター 講師 足立 由美	5
II. 話の聴き方 ―アクティブ・リスニング―		
	金沢学院大学基礎教育機構 准教授 木村 敦子	23
III. 質疑・討論		41
閉会の辞 総括	FD 委員長 國田 千恵子	47
資料 1 平成 23 年度前期 授業改善のための学生アンケート集計結果		49
資料 2 第 10 回 FD 研修会参加者アンケート集計結果		63
資料 (別冊) 金沢大学：心と体の育成による成長支援プログラム (最終報告書)		

開催にあたって

学長 槻木 裕



開催にあたって

本学のFD研修会も会を重ねて10回目を迎えることができました。このような研修会を長年続けて開催していくには相当な努力が必要で、この会の維持発展に努めてこられた方々—中にはもう退職された方もいらっしゃるのですが—に改めて敬意と感謝の気持ちを表す次第であります。

さて、教育は共同作業です。つまり、知識なり情報なりを発信する側と、それを受け取り理解する側との共同作業であるわけです。この共同作業が成立するには、その前に幾つもの前提が成立している必要があります。ところが、教育という営為をするに当たって、当然成立しているはずと思われてきた前提の諸部分が実際にはしばしば成立していない場面がけっこう多くなって、どうしたらいいのか戸惑ってしまうなどということ、ここにお集まりの先生方の誰しもが経験されてきたのではないかと思います。こういう事態が起きるとすれば、発信する側、受け手の両方、またはいずれか一方に不成立の原因があるので、ときに「あっちが（主に）悪い、こっちが悪い」という類の議論になってしまいます。今日の研修会は、仮に不成立の主因が受け取る側にあると（一般に考えられる）としても、私どもが情報発信という「教育」を生業（なりわい）としているのであれば、他方の側の‘欠損’を補うべく如何に行為するか、あるいは補助システムを構築するか—そういうことが今日のテーマなんだろうと考えます。もちろん私どもはこの方面の専門家ではないので、そんなにうまく対処できるわけではないのですけれども、初歩的な心構えや初歩的な処置の方法を理解したり身につけたりすることができれば、ずいぶんと対処の仕方が違って来るだろうと、そう考えて今回の研修会が開かれたものと思います。

しっかりと聴いていただき、活発な質疑応答を期待します。

I. 学生相談の連携と協働 —ネットワーク支援の事例—

金沢大学保健管理センター

講師 足立 由美



学生相談の連携と協働 ―ネットワーク支援の事例―

1. 大学教育における学生相談の重要性

学生相談の重要性は 2000 年度の広中レポートをきっかけに再評価された。その後、大学進学率の上昇にともなう学生の多様化で、多様な学生へのきめ細かい支援の必要性や、文部科学省の GP 事業等行政改革にもとづく大学教育改革の推進によって、現在に至る。学生相談はカウンセラー等の専門職が担当することが多く、病気や不適応などを起こしている人を対象とした支援というイメージをもたれてきたが、全学生を対象としている教育の一環であるということを FD 研修会の場では再度お伝えしたい。(スライド 3~8)

2. 現代の大学生の特徴

学生相談件数は右上がり増加し、利用者も増えている。相談に来る人＝不健康というイメージがあるかもしれないが、実は相談に来る学生の中には健康度の高い学生もいる。しかし相談に来れない学生の中に支援が必要な学生がいる。不登校、引きこもり、自殺、発達障害などの問題がそうである。今の学生の特徴を心理的に解説すると、悩む力がなく解離してしまうので、葛藤が見られず、身体化、行動化するという傾向が見られる。ネット、グローバル時代を生きてきた影響がある。文部科学省も多様な学生への対応を全学的に行うように、GP という事業で資金援助を行っていたのである。(スライド 9~15)

3. 金沢大学の学生相談体制

金沢大学では、入学時から担当学生の様子を見る「アドバイス教員制度」、履修・学習相談を中心とした「なんでも相談室」、進路・就職に関する「就職支援室」、ハラスメントに関する「総合相談室」、臨床心理士によるカウンセリングを行う「保健管理センター学生相談室」など、全学的な学生相談体制を作っている。(スライド 16~25)

4. ネットワーク支援の事例

1 年生の 5 月から不登校になっていた学生が適応するまで (事例 1)、4 年生で研究室への不適應を起こした発達障害傾向のある学生の現状 (事例 2)、1 年生のとき母親が連れてきて支援につながった、精神疾患による引きこもりを起こしていた学生が卒業するまで (事例 3) を紹介した。

5. 連携・協働のために

学生相談が大学教育の一環であること、対応の難しいケースを大学全体で支えることが広中レポートで明確化された。教員、職員、カウンセラー、学生 (ピア支援) などさまざまな人たちが支える、チームの支援が重要である。しかし、相談者の情報共有は学生本人の了承を得て行うことが基本であることを忘れてはならない。先生方にご理解いただきたいことは、「つなぐ」ことの重要性と、学生の多様性を理解してかかわっていただくことである。そして、学生相談は「すべての学生を対象とし、学生の間形成を促すもの」であるという観点から教育的にかかわっていただくことである。(スライド 27~30)

第10回金沢学院短期大学FD研修会FD研修会
2011.9.15(木)

学生相談の連携と協働 —ネットワーク支援の事例—

金沢大学保健管理センター講師
臨床心理士 足立 由美

スライド1

講演内容

1. 大学教育における学生相談の重要性
2. 現代の大学生の特徴
3. 金沢大学の学生相談体制
4. ネットワーク支援の事例
5. 連携・協働のために

スライド2

1. 大学教育における 学生相談の重要性

スライド3

日本における学生相談の動向

- 1) 2000年度の「大学における学生生活充実方策について—学生の立場に立った大学づくりを目指して—」(＝廣中レポート)に始まり、
- 2) 大学全入時代にともなう学生の多様化、
- 3) 行政改革にもとづく大学教育改革の推進

によって、学生相談活動は多様化して現在に至る。

スライド4

大学における学生生活の充実方策について 『廣中レポート』（平成12(2000)年6月答申)

Ⅱ 2 学生に対する指導体制の充実

(1) 学生相談 学生相談の捉え直し

(略)これまで、学生相談機関は、問題のある一部の特別な学生が行くところというイメージが根強くあったが、本来、学生相談は全ての学生を対象として、学生の様々な悩みに応えることにより、その人間的な成長を図るものであり、今後は、学生相談の機能を学生の人間形成を促すものとして捉え直し、大学教育の一環として位置づける必要がある。

スライド5

大学における学生生活の充実方策について 『廣中レポート』（平成12(2000)年6月答申)

Ⅱ 2 学生に対する指導体制の充実

(1) 学生相談 カウンセラー等の充実

(略)学生の相談に適切に応えていくことができるカウンセリング機能の強化を図るためには人的な充実が必要である。

(中略)しかし、学生相談機関の人員や組織の充実を図ることは、学生からの相談の全てを学生相談機関に委ねることを意味するものではない。学生の相談に応じることは、学生の人格形成に関することからであり、大学の全ての教職員それぞれが自らの基本的責務であるという認識を持つことが重要である。

スライド6

学生相談とは

- 「これまで学生相談は心理臨床学の一分野と考えられてきた側面があります。しかし学生相談は心理臨床学を基盤としながらも、理念と方法に独自性をもつ実践的な学問です。」(鶴田)
- 「インテーク機能・カウンセリング機能と心理療法の機能・ケースワーク的機能(平木)」
- 「理念的にはメディカルモデルではなく、成長モデル」
- 「青年期の学生が学び、生活する大学というコミュニティに位置づけられるべき」

教育の一環としての学生支援・学生相談

学生相談ハンドブックより

スライド7

学生相談の仕事

- 個別面接を行うこと
- 連携を行うこと
- 学生・教職員・保護者に向けたさまざまな活動を行うこと
- システムを整備すること
- 研修を行うこと
- 研究を行うこと
- 倫理的配慮を行うこと

学生相談ハンドブックより

- 多様な学生の相談内容は多岐にわたる
- カウンセラーが、保健管理センターが、対応すべき問題かどうかということから判断(=見立て)が必要
- チームでのサポートという視点が必要

スライド8

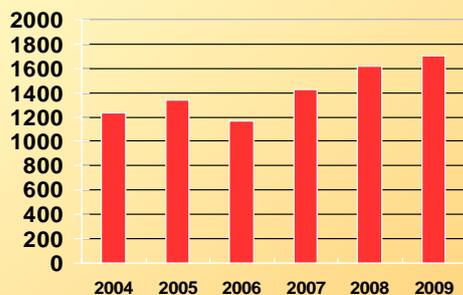
2. 現代の大学生の特徴

スライド9

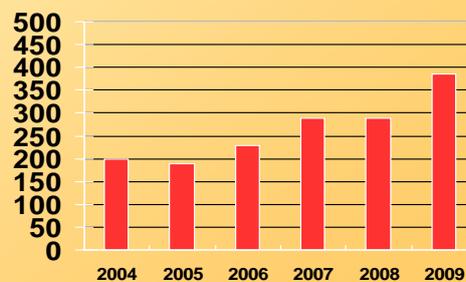
金沢大学の学生相談の現状

- 相談件数の増加(量)
- 相談内容の深刻化、多様化(質)

延べ相談件数



利用実数



スライド10

こんな相談がありますー学生相談ー

- 新しい環境になじめるか不安
- 友人がつかれない
- 友人にあわせるのが疲れる
- サークル活動が忙しすぎる
- 食欲がない
- 眠れない
- なんとなくもやもやする
- やる気がでない
- 集中力が続かない
- 何をしたらよいかわからない
- 単位がとれず、目的を失った
- この大学この専攻でよかったのか
- 将来どんな仕事につけるか
- 研究室になじめない
- 別れた恋人につきまとわれている
- 経済的な問題
- 親、家族の問題

スライド 11

相談に来る学生とは

- 相談に来ない学生の中に自分から助けを求められないサポートが必要な学生が存在する
- 管理的、過保護的な教育で主体性が育っていない



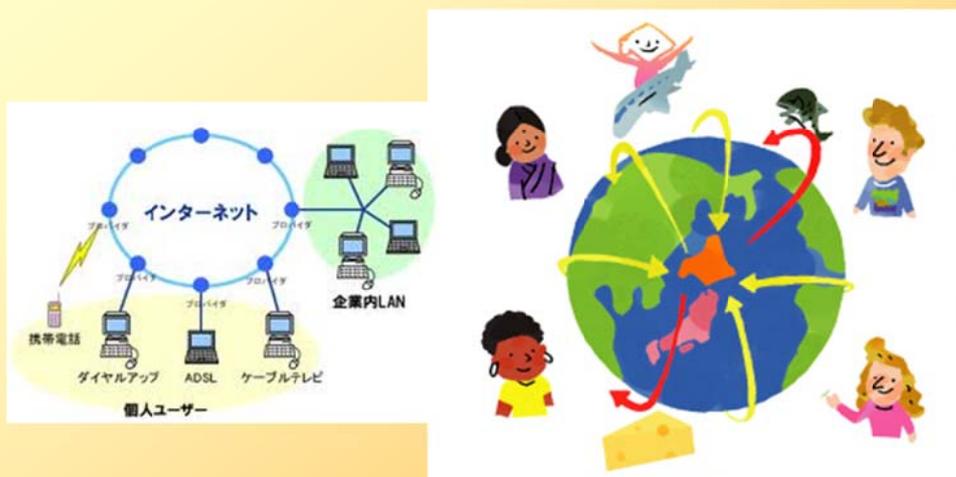
スライド 12

現代の学生の心理的特徴

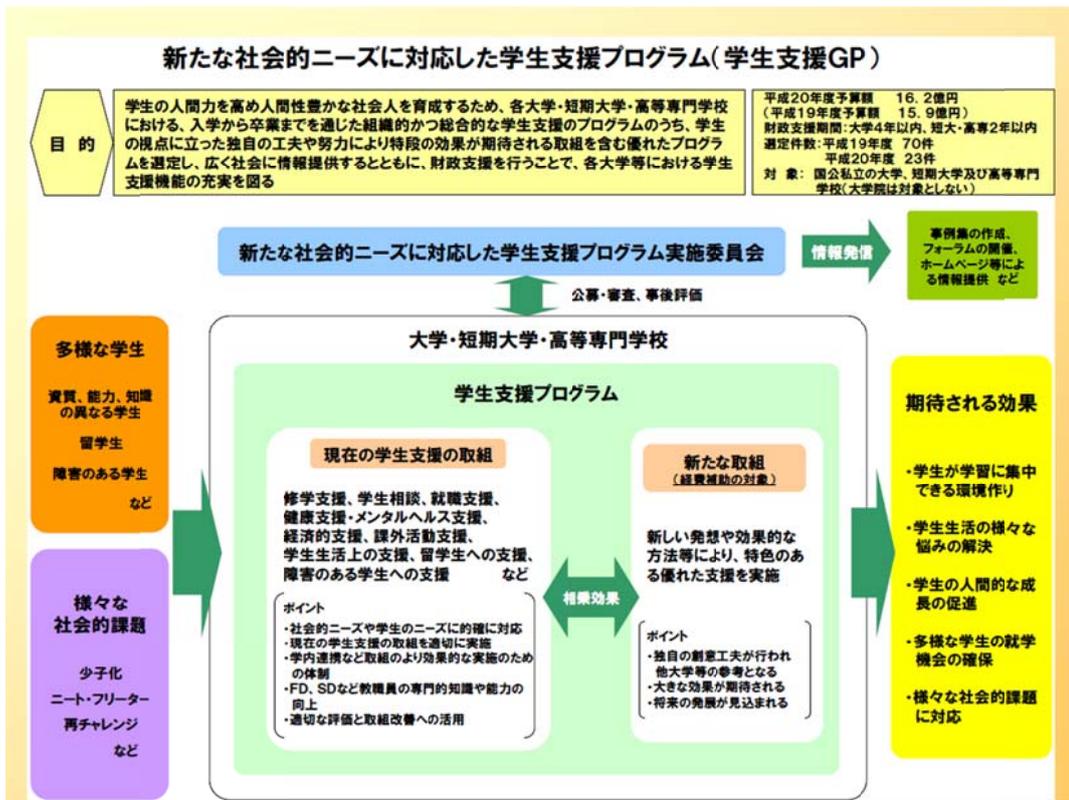
- 悩めない学生
 - 「自分探し」は青年期の発達課題であるが、心の中の矛盾や葛藤に直面し、悩むことができず、すぐに落ち込んだり、身体化、行動化するという傾向が見られる。
- 「わたし」の断片化
 - 自己という一個の人格の統合を保持し、その中で葛藤を体験するのではなく、統合を放棄することで内的葛藤を体験せず、自己の一面あるいは一部を別々に生きるというあり方が増えてきている。

スライド 13

ネット世代、グローバル化時代の学生



スライド 14

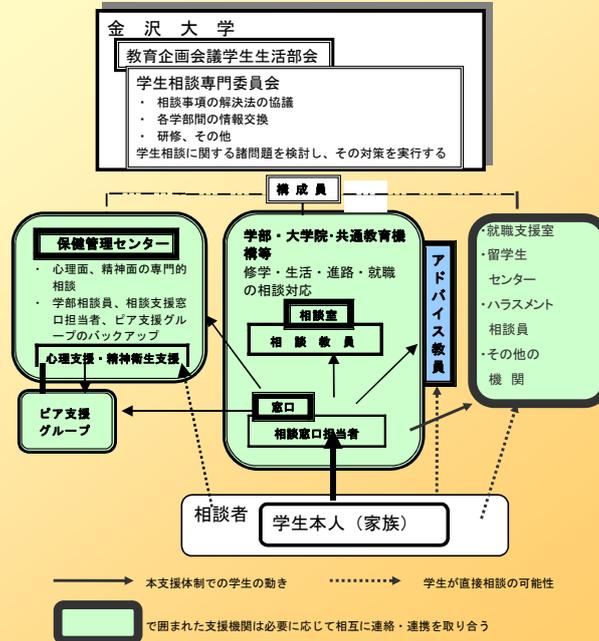


スライド 15

3. 金沢大学の学生相談体制

スライド 16

学生相談支援機構組織図



17

スライド 17

1) アドバイス教員

高校の担任

半年に一度



1～2年……初学者ゼミの受講生

3年or4年……所属ゼミの学生

M1～……指導教員

スライド 18

2) なんでも相談室『よるまっし』

- ・共通教育機構の中にある
- ・主に1、2年生を対象とした履修相談



スライド 19

3) 就職支援室

- ・大学会館2階
- ・キャリアカウンセラー 火・水・木 午後1～5時

スライド 20

4) 総合相談室(ハラスメント相談窓口)

- ・本部棟4階
- ・学生と学生
教職員と学生
教職員と教職員



スライド 21

5) ピア・サポート・ルーム

- ・保健管理センター南分室内
- ・週2回 午後1～5時
- ・学生ボランティア
- ・学生による

学生のための
なやみ相談室



スライド 22

6) 保健管理センター学生相談室



スライド 23

カウンセラーの対応

- ◆ 心理相談(基本的に週1回45~50分)
- ◆ 生活指導・社会学習的相談
 - ◆ 「悩めない学生」への教育的カウンセリング。
 - ◆ なるべく本人の意志(退学、方向転換)を尊重し、現実検討する。
- ◆ 環境調整(家族・教職員・医療との)
 - ◆ メンタルな問題を視野に入れる必要性。

スライド 24

カウンセラーの介入

- ◆ 健康診断後の呼び出し面接
 - ◆ 希死念慮がある学生への危機介入
 - ◆ 教育・啓発
 - ◆ 導入科目
 - ◆ 共通教育科目
 - ◆ 心理教育プログラム
 - ◆ 学生グループの支援
 - ◆ 居場所づくり
 - ◆ 人間関係の練習の場の提供
- 「悩めない学生」への
多様な教育活動
- 金沢大学学生支援GP
「心と体の育成による
成長支援プログラム」
で実施

スライド25

4. ネットワーク支援の事例

- 事例1
- 事例2
- 事例3

スライド26

5. 連携・協働のために

スライド 27

先生方にご理解いただきたいこと

- ◆ 「つなぐ」ことの重要性
 - ◆ Networking / 連携
- ◆ 学生の多様性への理解
 - ◆ 精神疾患/発達障害/Internet世代
 - ◆ 専門家への相談
- ◆ ひとりの学生の中の多様性への理解
 - ◆ × 「怠け」といった単一的な理解
 - ◆ ○ 葛藤しにくく解離しやすい世界

スライド 28

カウンセリング・マインドのすすめ

- 個性を殺さない教育
- 完ぺき主義にはまらない
- BeingとDoing
- 「なおす」のではなく「育てる」

スライド 29

参考文献

- 学生相談ハンドブック 日本学生相談学会50周年記念誌
編集委員会 学苑社 2010
- 大学教職員のための大学生のこころのケア・ガイドブック
福田真也 金剛出版 2010
- 事例から学ぶ学生相談 鶴田和美他 北王路書房 2010

スライド 30

Ⅱ. 話の聴き方

—アクティブ・リスニング—

金沢学院大学基礎教育機構

准教授 木村 敦子



話の聴き方 —アクティブ・リスニング—

(講演概要)

1. はじめに

今、大学での学生支援の重要性が言われており、支援が必要な学生のために教職員が心理面を含めたいろいろな相談に乗ることの必要性が増している。教職員による相談は、指導や助言の形をとることが多いが、学生が受け入れず効果を持たないこともある。また、心理的・精神的な問題が関係すると、どのように支援すればよいかわからなかったり、自分は専門家ではないからと支援に消極的になることもある。

そのような場合の対処法の一つに、アクティブ・リスニングがある。アクティブ・リスニングとは相手の話を「この人はどうしてそのような話し方をするのか」「どんな気持ちで話しているのか」などを分かろうとする積極的な姿勢で聴き、相手を理解することである。それによって相手との信頼関係も築くことができる。

信頼関係で繋がるのが効果的な支援につながりやすい。それでここでは、アクティブ・リスニングを体験的に学ぶことを目的とした。

2. アクティブ・リスニング

(1) アクティブ・リスニング使用の側面

まず、最初にアクティブ・リスニングとは何か、どのような時に使用できるか、どのように指導につなげるか、一般の教職員はどこまで学生に関わるかなどの概略を話す(26頁～29頁)

(2) アクティブ・リスニングの技法

実際にどのような受け答えがアクティブ・リスニングであるのか、応答の技法を示す(32頁～33頁)。また、アクティブ・リスニングを使った場合と使わない場合の仮定的な会話例を示した(34頁～37頁)。

(3) アクティブ・リスニングの体験

実際にアクティブ・リスニングによる会話を体験してもらおう。(詳細は30頁～31頁)

参加者が3人1組になり、面接者(話を聞く係)、クライアント(話をする係)、観察者の役割を取って、それぞれ実際に5分程度の会話を体験してもらおう。その際、面接者役は、アクティブ・リスニングの技法を用いてクライアントに応答する。その後、三人それぞれの立場から会話がどのように流れたかを振り返ってもらおう。3人の役割を交代し、各人がアクティブ・リスニングで話を聞く面接者を体験する。

アクティブ・リスニングは一種の技法であるから、頭では理解できても実践は一度の体験ではうまくできない。ここでは考え方を理解してもらい、その有用性について考慮してもらうことを重要視した。日常会話で練習をし、必要なときには実践で反映できるようにしてほしい。

話の聴き方—アクティブ・リスニング

1. アクティブ・リスニングとは

積極的な聴き方。≡ 傾聴

相手の話の文字通りの意味だけを受動的に聴くのではなく、「この人はどうしてこんな風な話し方をするのか」「どんな気持ちでこの話をしているのか」などをわかろうとする積極的な姿勢で話を聴くこと。

2. 話の中の3要素

話の中には次の3つの要素が含まれている

- ・ 事実（出来事）：「～ということがありました。そのときの状況は・・・でした」
- ・ 感情：「～ということがありました。それで・・・と感じました」
- ・ 計画（願望、予測）：「～ということがありました。それで・・・したいのです」

↓

3つの要素に焦点をあてて話を聞くことにより、相手の状況を相手の立場に立って理解する手がかりをつかめる

3. アクティブ・リスニングの方法

a. 聞き上手は話さない

指導しよう、助言しようと思っていると途中で話したくなる

b. あいづちを打つ

あいづちは「話をよく聞いているよ」と相手に伝える方法

- ・ はい、ええ、ふんふん、うん、へえ、それから、それで、まあそれぞれいろいろな言い方ができる
- ・ 短い繰り返し：相手の話のキーワードをそのまま繰り返す

c. 相手の言ったことをまとめる ⇒ 内容の反射

すぐにコメントが返せなくても、相手の表現をある程度もちいつつ「そうか、これこれこういうことだったんだね」

d. 早分かりにならない ⇒ 感情の反射

つい「わかるよ」「大変だったね」と早い段階からいいたくなることもあるが、却って“ほんとうにわかっているのか”、“そんなに簡単にわかるはずがない”と思われることも。

「わかるよ」ではなく「苦しかったんだね」「迷っているんだね」などと、感情の中身を捉えるほうがよい

e. 質問は、相手が自由に話せるような形式で ⇒ 質問

こちらの聴きたいことではなく、相手が話したいことを話せるような尋ね方を。

f. アクティブ・リスニングを超えて

以下の応答はアクティブ・リスニングがしっかりできていてこそ効果がある

- ・指示 <相手が取るべき行動の方向を示唆する。わかりやすく、理解しやすい方法で、具体的、特定の伝える>

例：今日帰ったら〇〇ページをよく読み、要旨を書いて持ってきて下さい、いい？
- ・情報提供、助言（アドバイス）、意見、示唆 <全て相手に情報を提供する方法。相手がそれらを受け取る状態にあるかを確認。明確、特定の、具体的な説明。相手が理解したかを確認すること。情報提供は間違いのない情報を提供すること>

例：自分の取得した単位を知りたいければ、教務部の人に聞けばいいです。短大の教務は1号館の1階に正面から入って左側のカウンターです。そこで聞けば教えてくれます。

 - * ゆっくりと、きつくならないように伝えるとよい
 - * 命令や脅しではなく提案として、それを受け入れるかどうかは学生任せ
 - * カリキュラムや事務手続き上の事実・現実はきちんと伝える
 - * アドバイスを学生がどう受け取ったかを確認できるように
 - * 一般的過ぎて、具体的にどうしたらいいかわからないでいることもある
- ・自己開示 <聞き手が自分の個人的な観察、経験、考えなどを話すこと>

例：あなたのご主人に思いやり深いのを感じます。それは私が自分の主人に対して持っていた気持ちを思いださせます。
- ・フィードバック <話し手と話し手の行動が他の人にはどのように見えるかを継げること>

例：あなたは眉にしわを寄せて身体を硬くしているので怒ったようにみえます。そうなのですか。

×あなたは不愉快な印象を与えています（曖昧で一般的）
- ・論理的帰結 <if~then について考えさせ、話し手に行動に対する具体的な結果をを考えさせる>

例：授業が簡単だからという理由で転学科すると、授業はわかるかもしれませんが、これまでに作ってきた人間関係も一から作り直すことになりますね。
- ・解釈 <「現実（感情、態度、行動、状況）」を新しい視点から再構成・再定義する>

例：「心理学の授業ををずっと休んでいて、まずいことになったと思っています」→（この学生のいつものパタンだ）「あなたは、年配の女性教師の授業についていけない傾向がありますね」「心理学の教師はあなたにとっては母親イメージなのです。母親に対する反応が心理学の教師に繰り返されているのです」
- ・対決 <要旨の混乱、葛藤、矛盾を発見し、相手にその旨伝えてこれを解決するための応答>

例：（「大学は私が4年で卒業できるように単位を出すべきだと思います」）

「初めのころあなたは、大学では興味のある領域だけ学ぶつもりで、卒業にはこだわらないと言っていましたね。そして興味のない授業は無視していました。それで今になって卒業できるように単位を出すべきだといわれるのが、わからないのですが」（非難ではなく指摘）

4. アクティブ・リスニングを使用する状況

- ・話に来ない ← 話しても無駄だと思っている、何を言われるか不安、
批判・説教されと思っている
⇒ 学生の立場に立った理解をこころがける、批判的ではなく肯定的に
- ・助言・指導の効果が無い（従わない） ← 学生の状況にぴったり来ない、納得できる助言
ではない
⇒ 学生の状況や心情などのより深い理解にもとづく助言
学生が理解したか、従える内容かを確認
- ・学生の問題の解決策がない・わからない ← 生き方や価値観など正解のない問題、専門外
の問題、情報不足など
⇒ 正解のない問題に答えを出そうとしない（本人が考えられるようなかわり）、
専門家に紹介・相談、より深い理解
学生を（問題・感情・望み等も）理解するための話の聴き方がアクティブ・リスニ
ング
注）学生の「指導法」ではない

5. 支援が必要な学生の例：学校へ来ない学生

理由はいろいろ考えられる。複数の理由が関わる場合もあろう

- ・授業がわからない
- ・（その授業に、大学に、勉強に）興味がない
- ・発達障害
- ・精神障害
- ・うつ
- ・神経症的症状
- ・経済的な問題
- ・不本意入学
- ・学校とあわない（学力）
- ・学校に不満（授業がうるさい、生徒が不真面目など）
- ・自立の希望（就職などや、やりたいことがある）
- ・自我同一性の模索（なにをしたいか生き方を考えている）
- ・家庭の問題
- ・人間関係
- ・その他

(1) 事実・感情・計画を頭において、学生の話聴く

どういう事態であり、それについて本人はどのような感情をもっているか、またどのよう
にしたいと思っているのか

但し、本人にもよくわかっていないこともあるのでそのまま聞けばよいわけではない。

表向きの理由と真の理由が違うこともある（例えば「勉強がわからない」という話が、聴

いていくと「友達がいらない」ことが真の問題であったりする)

(2) 何ができるかを考えつつ聴く

補習指導、助言、理解者として聞き役、情報の提供、連絡・調整
他者・他機関への紹介

(3) その上で必要に応じて「調べて」「動く（連絡・調整など）」

6. 大学における支援のあり方

一般の教職員がやれること

・問題を持つ学生の察知（察知するにはある程度の知識も必要）

↓

・話を聴く（アクティブ・リスニング） → 教員による問題の解消
（教育・学習の問題は先生にお任せ）

↓

・適切な人や機関につなぐ

↓

・つないだ先の人や機関と連携して学生を支援する

大学としてやれること

教職員がつなぐことのできる窓口と、そこからのネットワークを作る
学生支援（発達障害に限らない）のための組織

保健室

学生相談室、相談員

学生委員会

学生部、教務部、就職支援センター、各学部等との連携

やってみようーアクティブ・リスニング

上達には訓練が必要であり、最初は頭でわかっているにもかかわらず実際にうまく言葉にならないのが普通なので、あまり気負わずに、どれだけ難しいかを体験するつもりで面接者をやってみてください。聞き手に徹する練習です。

- ・3～4人のグループになる
- ・話し手（クライアント：C）1人、聞き手（面接者：I）1人、観察者（：O）2人とする。
できれば順次役割を交代する
- ・面接者はアクティブ・リスニングでクライアントを理解しようとする
- ・クライアントは面接者に練習させてあげる役。何か困難を持っていて相談する。
話題は何でもよいが対応に困った学生の経験があればその学生の役をやると実感が出る。
困った学生に苦慮する教師の役でもよい、
- ・観察者は、タイムキーパー（始め、止めの合図）と、観察、できるだけ面接の記録

（1）一相づちと開放質問の練習ー

面接時間：3分

どんな応答をしてもかまわないが、相づちとなるべく開放質問を使ってみる。
終わったら、今の面接の感想や意見をそれぞれの立場から述べあう：3分

観察者：話の流れはどうだったか。

その中で相づちと開放質問はうまく入っていたか

面接者：感想。うまく面接できたか。相づちと開放質問をうまく入れたか、

クライアント：話を聞いてもらった感想。ちゃんと聞いてもらっている気がしたか。

相づち・開放質問をされたときの感想

どこで、どんな風に言えばよかったかを皆で考えてみてください

（2）一内容の反射の練習ー

面接時間：3分

どんな応答をしてもかまわないが、なるべく多く内容の反射を使ってみる
終わったら、今の面接の感想や意見をそれぞれの立場から述べあう：3分

観察者：話の流れはどうだったか。

その中で内容の反射はうまく入っていたか

面接者：感想。うまく面接できたか。内容の反射をうまく入れたか、

クライアント：話を聞いてもらった感想。ちゃんと聞いてもらっている気がしたか。

内容の反射をされたときの感想

どこで、どんな風に言えばよかったかを皆で考えてみてください

（3）一感情の反射の練習ー

面接時間：3分

どんな応答をしてもかまわないが、なるべく多く感情の反射を使ってみる

終わったら、今の面接の感想や意見をそれぞれの立場から述べ合う：3分

観察者：話の流れはどうだったか。

その中で感情の反射はうまく入っていたか

面接者：感想。うまく面接できたか。感情の反射をうまく入れたか、

クライアント：話を聞いてもらっての感想。ちゃんと聞いてもらっている気がしたか。

感情の反射をされたときの感想

どこで、どんな風に言えばよかったかを皆で考えてみてください

(4) —アクティブ・リスニング—

面接時間：5分

相づち、開放質問、内容の反射、感情の反射で面接を進める

事実、感情、計画を念頭に置きながらクライアントを理解しようとする

終わったら、今の面接の感想や意見をそれぞれの立場から述べ合う：5分

観察者：話の流れはどうだったか。

その中で感情の反射はうまく入っていたか

面接者：感想。うまく面接できたか。感情の反射をうまく入れたか、

クライアント：話を聞いてもらっての感想。ちゃんと聞いてもらっている気がしたか。

感情の反射をされたときの感想

どこで、どんな風に言えばよかったかを皆で考えてみてください

(5) —学生への支援—

面接時間：7分

アクティブ・リスニングを基礎にして、必要ならそれ以外の応答も含め、問題に対処する

終わったら、今の面接の感想や意見をそれぞれの立場から述べ合う：7分

観察者：アクティブ・リスニングに基づいた支援ができていたか。

面接者：感想。うまく面接できたか。

クライアント：話を聞いてもらっての感想。

どこで、どんな風に言えばよかったかを皆で考えてみてください

アクティブ・リスニングの技法

1. あいづち

言語的：ふんふん、うん、へえ、それから、それで、まあ

非言語的：うなづく

話し手の言葉の短い繰り返し

例：「実は必修科目の単位を落としてしまって、来年卒業できるのかどうか・・・」

「単位を落として・・・」

例：「A先生が、私の指導のときだけ、なんだか不機嫌そうで」

「不機嫌そう・・・」

2. 質問

1) 閉鎖質問<はい・いいえや短い一言だけで答えられる質問の仕方>

例：「ちゃんと勉強しているの?」「単位は取れている?」「名前は?」

2) 開放質問<はい・いいえではなく、もう少し多く話すことになる質問の仕方>

例：「どうしましたか」「もう少し教えてください」「詳しく話してください」

「そのときあなたはどう思ったの」「学業で困っているのはどんなことですか」

注：「なぜ」「どうして」は開放質問であるが、話し手を批難しているように感じられやすいので注意が必要。批難と受け取られる応答は避けること。

例：「なぜ学校に来られないの」「どうして授業に出てこないの」

3. 内容の反射<話の内容を正確に理解していることを確かめる、伝える>

1) 話のエッセンスを捉えて話し手の言葉で返す

2) 長い込み入った話やいくつかの発言を要約して返す

例：「卒論指導を A 先生にしてほしいのですが、希望者が多くてできるかわからないんです。成績順ということですが、あまりよくないもので。」

「希望していた指導教員にならないかもしれないですね」

例：（「私が学校を辞めたいというと、父も母も、そんなことぐらいでせつかく入った学校を辞めるなんてもったいないというんです。」）

「ご両親はあなたが学校を辞めることに反対なんですね」

例：（「娘が夜帰ってこないんです。説得しても、頼んでも、叱りつけてみてもきかないんです。他に何が出来るというんです。もうお手上げです。」）

「いろいろやってみられたが全部だめだったんですね。」

4. 感情の反射

話し手の感情・気持ちをつかんで、ふさわしい感情語で返す。

例：「もうあと 1 分あれば解けた問題なのに、チャイムがなくなってしまって。」

「それはくやしかったですよ。」

例：「あきらめていた会社から内定通知が来て、何と就職できることになったんですよ。

もう踊りだしたいくらいです」

「ものすごくうれしかったですね。」

例：「(うなだれて低い声で)まあ、就職に違いはないんで、喜ばなくてはいけないんですよね。」

「なんだか不満そうですね」「あまりうれしくなさそうですね」

感情語を豊富に

不安、驚き、恐怖、憂鬱、迷い、いらいら、苦しい、悲しい、あきらめ、絶望、気遣い、心配、満足、

*発達障害の学生には

アクティブ・リスニングだけでは対応できず、具体的な問題への対処が必要。

対処の方法も明確に具体的に示す必要がある。

(1) アクティブ・リスニング

受け入れてよく話を聴く

(2) 問題の理解と説明・助言

適切な質問で今起きている問題を把握する。

それを整理して、どんな状況でどうして問題が起きているのかを本人によく説明する。

そして大学や社会の制度、常識を伝え、具体的で実用的な助言や指示をする。

注)・「ちゃんと」「適当に」「相手の身になって」という抽象的な言葉は苦手

・レポートの課題なども、「何を、どのように、いつまでに、どこまで」を明確に。

・例えば「この本の、20～25 ページの自閉症の支援機関について、その名称、住所、電話番号、メールアドレスを抜き出さない。そして、エクセルを用いて、横のセルに項目、縦のセルに支援機関を並べた一覧表を作って、5月14日の15:00までに、3号館3階の〇〇学科の事務窓口にある私のメールボックスに入れなさい」という調子

・言葉で話すだけでなく、メモや図表など視覚情報を利用する「視覚化」も有効。

欠席学生のケース（1）

I 1 : 最近ずっと休んでるよね、これ以上休むと単位出ないよ。 どうして来ないの？	開放質問（なぜ）
C 1 : はあ、ちょっと体調が悪くて・・・	
I 2 : 生活が不規則になっているんじゃないの？	閉鎖質問
C 2 : はあ、なんか、朝起きられないし、考えても頭がはっきりしなくてうまく考えられないし、やる気も出なくて・・・ うつなんじゃないかと思います。	
I 3 : 病院へは行ったの？	閉鎖質問
C 3 : いえ、	
I 4 : 何で行かないの？うつだったら薬飲めばよくなるんじゃないの。早く病院へ行って診てもらえば。	開放質問（なぜ）、助言
C 4 : はあ、でもお金がないし、あんまり病院へは行きたくない。	
I 5 : お金はおうちの人に出してもらえば。	助言
C 5 : 親には言いたくないです。心配かけたくないから。	
I 6 : じゃ家の人には調子が悪いことを言ってないの？	閉鎖質問
C 6 : はい	
I 7 : じゃどうするつもり？	開放質問
C 7 : 6回以上休んだらどうしてもダメですか。	
I 8 : そりゃそうだよ、決まりだからね	意見
C 8 : でも〇〇先生の授業では、△△さんが7回休んだけど、 調子が悪かったんですと言ったら、レポートで単位もらえたって言ってましたけど。	
I 9 : 〇〇先生のことは知らないけど規則では駄目なことになっているからね。それは曲げられないよ。だいたい本当にうつの？	情報提供、意見、 閉鎖質問
C 9 : ・・前にも似たようなことがあったから・・・	
I 10 : 病院で言われたわけじゃないからはっきりうつと決まったわけじゃないよね。夜更かししないでしゃんとしてやる気を出せば大丈夫じゃないの？	意見、助言
C 10 : ・・やってみます	
I 11 : そうしなさい	意見

欠席学生のケース（2）

I 1 : 最近ずっと休んでるよね、これ以上休むと単位が出せないし、どうしたのかなと思ってきてもらったんだけど？

C 1 : はあ、ちょっと体調が悪くて・・・

I 2 : そう、体調が悪いの。どんな風に悪い？

C 2 : えっとなんか、朝起きられないし、考えようとしても頭がはっきりしなくてうまく考えられないし、やる気も出なくて・・・うつなんじゃないかと思います。

I 3 : ふうん、朝起きられなかったり、うまく考えられなかったり、やる気がでないんだ。でそれはうつのせいかなと思うのね。こういうのってうつなんだなって思ったのはどこから？

C 3 : え、前にも同じような調子になってその時に病院でうつですと言われたから。

I 4 : ああ。前にも同じようなことがあったのね。で、今もそのときと似ているのね。どんなところが似てるのかな、そのときのこと少し話してください。

C 4 : 高校3年の12月くらいに、やっぱり朝起きれなくて、だるいし頭がうまく働かなくなって、しばらく学校休んだことがあって。保健の先生が病院を勧めたけど親は最初病院なんか行かなくていいって反対してて、でも結局病院へ行ったらうつといわれました。

I 5 : うんうん、だから今回もうつかなと思ったのね。他には体調の悪さはないの？

C 5 : 夜眠れない、布団に入るけど、何かいろいろ浮かんできて、考えてるとなかなか寝付けなくて、そのうち3時とか4時とかになる

I 6 : 夜眠れないのか。いろいろ浮かんでくるってことだけど、どんなようなことが浮かんでくるの？

C 6 : 高校でうつって言われたときのこととか、今も授業に出れていないけどどうなるんだろうとか、

I 7 : 不安なことが出てくるみたいね

C 7 : そうです。考えてると不安になる

開放質問（なぜ）

相づち、開放質問

内容の反射、開放質問

内容の反射、開放質問

あいづち、内容の反射、閉鎖質問

あいづち、開放質問

感情の反射

日常会話とアクティブ・リスニング

(日常会話)

- | | |
|--|-----------------|
| <p>A 1 : 就職教育の授業では学生うるさいですね。講師の話を聴かないで雑談ばかりで。
自分たちの将来のことなのに、なんで真剣に聞かないんでしょう。</p> | <p>感想、自分の状況</p> |
| <p>B 1 : ちゃんと考えてないんですかね。私の授業でもうるさいですよ、演習だと人数が少ないからまだ大丈夫ですけど。</p> | <p>感想、自分の状況</p> |
| <p>A 2 : 私の授業は人数が多いので、すごいです、「うるさい」と注意してもそのときだけちょっと静かになるだけでまたすぐ話し出すし。</p> | <p>自分の状況</p> |
| <p>B 2 : 私も「話をしたいなら出て行きなさい」というとちょっとおとなしくなるけど、そのときだけでね、またすぐうるさくなるんですよ。</p> | <p>自分の状況</p> |
| <p>A 3 : 平気で遅刻してきて半分以上授業が終わってから入ってきたりする学生もいて。</p> | <p>自分の状況</p> |
| <p>B 3 : 私は遅刻した学生は教室のドアにかぎをかけて入れないようにしたりしてますけどね。「なんで鍵かけるんだ」なんて言ってきますよ。</p> | <p>自分の状況</p> |
| <p>A 4 : そうそう、目の前で平気で後ろ向いて話してたりね、注意したら今度は寝てるか携帯いじってるかだし。</p> | <p>自分の感情</p> |
| <p>B 4 : あんまりきつく注意して、すごまれたら怖いですしね。今どきの男の子は身体も大きいし、怖いですよ。</p> | <p>自分の感情</p> |
| <p>A 5 : そうなんです、だからつい、まあいいかという気持ちになってしまって。でもそうするとこちらのモチベーションが下がって、どうすればいいんでしょうね。</p> | <p>自分の感情</p> |

(アクティブ・リスニング)

- | | |
|--|------------|
| <p>A 1 : 就職教育の授業では学生うるさいですね。講師の話を聴かないで雑談ばかりで。
自分たちの将来のことなのに、なんで真剣に聞かないんでしょう。</p> | |
| <p>B 1 : そうですね。授業に真剣ではない学生がいますね。</p> | あいつち、内容の反射 |
| <p>A 2 : そうなんです。私の授業でも人数が多い授業ではそういう学生が結構います。大声で雑談していて、注意してもそのときだけちょっと静かになるだけでまたすぐ話し出すし。</p> | |
| <p>B 2 : 注意しても聞いてくれないのは本当に困りますね。</p> | 感情の反射 |
| <p>A 3 : ええ、どうすれば静かに授業を聞いてくれるのか、授業の仕方にも工夫があるんだろうと思うので、自分なりにいろいろやってみるんですが、どうもうまくいかないんです。</p> | |
| <p>B 3 : いろいろ工夫されてもなかなか効果がないんですね。</p> | 内容の反射 |
| <p>A 4 : そうなんです。教科書が難しいのかと簡単な教科書にしてみたり、プリントを作ってみたり、板書してみたり、毎回の授業でレポートを書かせてみたり、ゲームを入れてみたりしてみてもあまり効果がないんです。子供みたいにしょっちゅう注意するのも嫌だし、自分で自覚して欲しかったんですがどうも駄目なようなので、今度は座席指定制にしてみようかと思っているんです。</p> | |
| <p>B 4 : ああ、座席指定を考えておられるんですね</p> | 内容の反射 |
| <p>A 5 : ええ、それなら騒がしいグループが離れるだろうし、こちらも座席によって名前がわかるので名指しでの注意や管理もしやすいかと。</p> | |

発達障害の場面一覧

独立行政法人日本学生支援機構の Web ページから抜粋

http://www.jasso.go.jp/tokubetsu_shien/guide/hattatsu_bamen.html

場面		どのような困難があるか	どのような支援が必要か	段階別支援検討(※)	
I 入学まで	1 入学試験	集団の中で試験が受けられない	別室受験	●	
		答えを口に出してしまう			
		文字を読むのが困難である	※日本の大学ではほとんど行なわれておらず、今後の検討課題である		—
		文字を書くのが困難である			
	マークシートをうまく塗りつぶせない				
2 入学まで	支援受付窓口が分からない	相談窓口設置・窓口のインフォメーション	△		
	どのような支援を受けられるのか分からない	オリエンテーションや文書での通知	△		
II 学習支援	1 履修登録	履修計画が立てられない	履修登録補助	△	
		授業の内容、形式、評価方法（試験かレポートか）等の情報が明らかでない場合、自分に適した授業が選択できない	詳細なシラバスを作成	△	
		希望する授業が履修制限で取れない	優先履修登録の検討	●	
	2 授業 (講義)	文字を読むのが困難である	読み上げソフトの紹介	△	
			資料の電子データ提供	◎	
		文字を書くのが困難である	パソコンの持込許可	△	
			ノートテイク	●	
		話を聞きながらノートを取るのが困難である	講義内容の録音許可	△	
			詳しい配付資料の準備	◎	
		ノートテイク		●	
			決まった席でないと座れない	座席配慮	△
		(演習など) 自分の意見が言えない (または言いすぎる)	議論のルールを決める	△	
		(演習など) 質問に答えられない	具体的な質問をする	△	
		(卒論など) テーマを決められない	担当教員による綿密な面談	△	
		授業に遅刻してしまう	時間管理スキル指導	△	
	急な変更に対応できない	事前に個別伝達	◎		
	(実験・実習)	対人関係に問題が生じる	周囲の理解と本人への助言、心理カウンセリング	△	
		集合場所・時間を間違える	自己管理スキル指導	△	
			連絡事項等文書伝達・注意喚起	△	
	手順を理解できない	分かりやすい手順説明資料を配布	△		

場面		どのような困難があるか	どのような支援が必要か	段階別支援検討(※)
II 学習支援	実験等	注意力的問題がある	注意事項チェックリストを作成配付	△
			グループメンバーに協力を依頼する	△
	3評価	細かい作業が苦手である	グループメンバーに協力を依頼する	△
		文字を読むのが困難である	試験をレポートに代替する	●
			文字を書くのが困難である	口頭試問などへの解答手段変更 パソコン筆記での解答
II 学習支援	3評価	試験日時・会場・レポート提出日を間違える、指示を聞き違える（聞き逃す）	自己管理スキル指導	△
			個別注意喚起・伝達	◎
		期限までにレポートを提出できない	提出期限の延長	●
			時間管理スキル指導	△
		(試験で)集中を持続するのが困難である	別室受験	●
III 学生生活支援	自分に必要な支援を説明できない	支援要請スキル指導	◎	
	自分の障害を理解できない	自己理解促進指導	△	
	対人関係に問題が生じる	周囲の理解と本人への助言、心理カウンセリング	△	
	集団活動（サークル、下宿等）に問題が生じる			
	連絡がとれなくなってしまう、引きこもってしまう	友人からの情報収集、家族へ連絡	△	
	学内で食事が取れない・一人で過ごせない	居場所提供	△	
	一人暮らしが困難である（ゴミ出しや健康管理等）	社会的スキル指導	△	
	非常時（地震、火事等）に対応できない			
	宗教、詐欺被害に遭いやすい			
	電車に乗れない	自動車通学許可・駐車場確保	●	
IV 就職支援	履歴書が書けない	就職ワークショップ等の紹介	△	
		個別に履歴書の書き方を指導する	◎	
	職業の適正が分からない	職業適性評価・ジョブマッチング・学内資源（図書館等）やアルバイトなどを利用した就業体験	△	
		就職が決まらない	地域の障害者職業センター、障害者就業・生活支援センター、ハローワーク等外部リソースとの連携	◎
	学内コーディネーター（心理カウンセラー）とキャリアカウンセラーの連携 障害者手帳の取得指導、障害者雇用率制度の使用指導			
	使える社会的資源を知らない	地域の障害者職業センター、障害者就業・生活支援センター、ハローワーク等外部リソース情報の提供	◎	

※段階別支援検討

- : 専門医を受診し、発達障害の診断を受け、障害であることの証明(療育手帳や精神障害者保健福祉手帳、あるいは医師からの診断書)がある場合には、本人の必要に応じた支援を検討していただきたい事項 (◎・△を含む)。
- ◎ : 手帳や診断書などの公的な証明がなされていない場合でも、校医や学生相談室など学内の専門家の意見で発達障害の可能性がかなり高いと思われる場合に支援が可能であると考えられる事項 (△も含む)。
- △ : 「普段の行動から発達障害の可能性が想定され本人や保護者が支援を求める場合」や、「本人が障害を認識せず自主的な申し出がないが、周囲の人間がなんらかの困難を感じている場合」も支援が可能であると考えられる事項。

Ⅲ. 質疑・討論



質疑・討論（足立先生、木村先生に対して）

Q. カニンガム先生

学生が来て話をすると、プライベートなことをどんどん深く話してしまうことがある。途中でこの学生は問題ありだと判断した場合、どこで話をストップさせるのか、その線引きはいつ・どのようにすればよいのか教えてほしい。

A. 木村先生

自分が対応できないと思ったときがその時期ではないでしょうか。

Q. カニンガム先生

誰か適切な人へ引き継ぐのはどのようにするのか。

A. 木村先生

例えば「専門のところに相談に行ったらどうでしょう。それで、どうだったかまた教えて下さい。」というような感じで話すのが良いでしょう。アクティブ・リスニングをしていると、どんどん深いところまで言ってくるようになる。専門家につないだらもう知らないというのではなく、やっぱりあなたのことは心にかけていると伝えるべきです。

A. 足立先生

相談にのるときは前もってアポを取って来てもらうなどして、最初から自分のペースを乱されないようにするとよいでしょう。ルールを決めておいたほうが安心してネットワーク（連携）支援ができます。

A. 木村先生

連携するときの個人情報の問題は重要です。本人に承諾を得ることが基本です。「あなたのためだから～さんにも知らせるね。」のように言い、関係の無い人には漏らさないことです。

Q. 河内先生

不登校の学生で、口をきかず・話さず、なおかつ家族の協力が得られないという学生がいたのですが、このような場合の連携とはどうあるべきなのでしょう。

A. 木村先生

話さないとはどのようなのでしょうか。書いて意思を表すことはできるのか、特定の人とは話すのか。話すという経験の無い学生の場合は難しいです。警戒心が強く様子を見ているような場合はきっかけがあれば話すようになります。何も話さなくても「よく来たね。じゃあまた来週。」などと言って接し、話すことが本人の利益になると理解させ、話して助けを求める習慣を育てていくようにします。いずれにせよ、一人の教員が抱え込む事例ではないです。本学ではきちんとした連携の組織は無く、まずは保健室・学生相談室ということですが、どうすれば連携しやすく

なるかを考えていかねばならないと思います。

Q. 澤村先生

高校時代に不登校であったとか、通信制に通っていたなどの理由で、友達と何かしているという経験が少ない学生や、他にも中学校でそういくことをしていないので大学で頑張ろうって人の中に、集団でいることが苦痛で一人でいたい人がいます。それとアスペルガーのような人で普通教室にいることが厳しく、ご飯を食べるところもない、そういう人たちもいます。こういった学生の居場所の確保はとても苦勞するのですが、木村先生にこの点についてお話をいただければ幸いです。

A. 木村先生

資料集にも載せましたが、コミュニケーションプレイスの設置などが 1 つの方法として挙げられると思います。コミュニケーションプレイスは、他の学生もですが、多様な学生に、自分の居場所を確保できるようにするため、一人席もあればグループディスカッションのスペースもあります。アスペルガーの人は、こういうもの自体が居場所になっています。また、特定の人がいるところの方が居場所としては良いのかと思います。それと物理的だけではなく、調理実習やイベントなどの心理的な居場所のことを考えたり、同じスタッフがいつもいるようにするのが良いのかなと思っています。

Q. 平木先生

私の悩みなのですが、学生を注意しなきゃならないのです。本学は環境の違う学生諸君がたくさんいます。支援が必要な学生、色々なことがあるのは分かります。でも、明らかに身勝手だなんて子どもたくさんいるんです。私の方が下手にならなきゃならない。これは本末転倒なことだっと思うけど、本当にそういう学生がいるんです。そういう子への対応というか、落とし所は一体どうすればいいのでしょうかっていうのを教えてください。

A. 木村先生

全員を対応するのは難しいです。しかし、ある意味では学生は子供ですし成長の余地があり、時間とともにそういうところも補正されていることもあると思います。それは、教職員よりも若いのでできると思うのです。もう少し教育的に大人になるのを見守るのも。

Q. 平木先生

こっちが口説きながら話し、こっちが精神疾患になってしまうくらい振り回されているのがこちらの悩みなんです。

Q. 小林

先日、防災訓練があり参加しました。この度の東日本大震災のこともあったので実際に授業中の有事に備えて、3 階の教室から避難器具を使って避難訓練させていただきました。その時に練習であったのに、自分一人でもとても大変でした。それで今回の希死念慮がある学生の事例を聞いて思ったのですが、そういう学生を果たして助けることができるのでしょうか。授業を受けてい

る他の学生もそういう学生も助けながら自分の身も守らなければいけない。小さい子供であれば抱えることもできるかもしれませんが、学生はそうはいかない。それで質問なのですが、有事の際にこのような学生やパニックを起こしそうな学生がいた場合、授業担当者としてどのような対応を取ればいいのか、もし専門分野の方法があったり過去の事例があればぜひ教えてください。

A. 足立先生

確かに東日本大震災の時には、避難先で自閉症の人が共同生活が出来なかつたり溶け込めなかつたという報告や、避難場所を移動せざるを得なくなった人がいたという報告もあります。しかし実際に、どういう方法で避難をさせるとかどう対処する、意識するというものは定義されておりません。この点に関しては金沢大学に戻って報告し、また検討したいと思います。

閉会の辞

総括

FD委員長 國田 千恵子

第10回金沢学院短期大学FD研修会では、金沢大学保健管理センターで臨床心理士として学生相談業務をなさっている、足立由美先生にお越しいただき、大学教育における学生相談の重要性や現代の大学生の特徴、学生相談体制やネットワーク支援の事例などについてお話を伺いました。

また、第6回FD研修会でも「支援を必要とする学生への対応について」お話をいただいた、金沢学院大学基礎教育機構の木村敦子先生には、より実践的な内容のご講演をお願いし、聞き手に徹する練習、アクティブ・リスニングの技法を教わり、体験しました。

足立先生のお話は、特に次の点について、教職員が共通の認識を持つ良い機会になったと思います。一つは、大学全入学時代にともない、学生が多様化する中、学生相談活動も多様化しており、相談内容も多岐に渡っていること。そのため、相談内容に対し、カウンセラーが対応すべき問題なのか、保健管理センターが対処すべきのかなどの判断（見立て）が重要であること。二つ目は、学生の相談に応じることは、学生の人格形成に関する事柄であることから、教育の一環としての学生支援・学生相談が必要であり、チームでのサポート（ネットワーク支援）という視点が大切であること。最後に、学生支援における連携・協働のためには、学生の多様化と、ひとりの学生の中の多様性への理解が必要であり、「つなぐ」ことの重要性を認識することです。

教職員としての今後の学生対応のあり方や学内における支援体制を考える上で、多くの示唆を得られたと思います。

木村先生からは、学生を理解するための話の聴き方、アクティブ・リスニングの方法と使用する状況、日常会話とアクティブ・リスニングの違いなどについて伺いました。その後、グループにわかれ、話し手（クライアント）、聞き手（面接者）、観察者の役割を体験しました。学生支援・学生相談が教育の一環として位置づけられ、学生の人格形成において、教職員の連携・協働が重要である現状では、学内の誰もが、学生からの相談を最初に受ける、あるいは話を聞かねばならない立場となる可能性があります。添付資料の「第10回FD研修会参加者アンケート集計結果」には、アクティブ・リスニングの難しさと大切さを挙げる感想や意見が多かったように思います。

「支援が必要な学生への対応」をテーマに開催した今回のFD研修会は、金沢大学での学生相談体制やネットワーク支援事例を伺うことにより、本学における学生支援・学生相談体制を考える好機になったと思われます。そして、アクティブ・リスニングの体験は、これまでの学生対応を振り返るきっかけにもなり、聴くことの重要性を改めて感じると同時に、今後活かせる知見も得られたのではないかと思います。質疑応答では、教職員が実際に対応した事例などの質問もあり、関心の高さが窺える有意義な研修会であったと思われます。末筆ではございますが、お忙しい中、ご講演いただきました足立先生、木村先生に深謝申し上げたいと存じます。

資料 1

平成 23 年度前期 授業改善のための学生アンケート集計結果

平成23年度前期 授業改善のための学生アンケート集計結果

1. 学生アンケート実施

実施日：平成23年7月11日(月)～7月26日(火)

科目数：112科目 (回答数：2692枚)

2. アンケート集計処理

短期大学全体	→	112科目	(2692枚)	専攻科も含む	
ライフデザイン総合学科	→	63科目	(1212枚)	} 両学科共通は 7科目 (145枚)	
食物栄養学科	→	45科目	(1526枚)		
専攻科 食物栄養専攻	→	11科目	(99枚)		
1年生科目	→	49科目	(1367枚)	専攻科は含まず	
2年生科目	→	52科目	(1226枚)	専攻科は含まず	教養と専門の
基礎科目・教養科目	→	22科目	(549枚)	専攻科は無い	} オーバーラップは 2科目 (61枚)
専門科目・教職科目	→	92科目	(2204枚)	専攻科も含む	

3. 短期大学全体のアンケート集計結果

(1) 評価が良い回答

問1. 先生の声は聞こえましたか。

問4. 教科書・参考書・配付資料などは活用されましたか。

問7. 授業に対する先生の熱意が感じられましたか。

(2) 評価が悪い回答

問11. あなたは授業の「講義要項(シラバス)」を活用しましたか。

問12. あなたは、この授業の勉強(予習・復習・課題など)をしましたか。

(3) 授業について当てはまる項目で回答数が多い項目

(％は受講学生数に対する回答した学生の割合)

5. 内容が難しかった。(27.7%)

7. 自分の基礎知識がなかった。(26.9%)

4. 量が多かった。(21.6%)

8. 自分が勉強不足だった。(21.3%)

4. 短期大学全体と両学科の比較、1・2年生科目の比較、教養と専門科目の比較

(1) 短期大学全体、ライフデザイン総合学科、食物栄養学科の傾向はほぼ同じである。

全体的に「自分の基礎知識がなかった」と感じている学生が多い様子である。

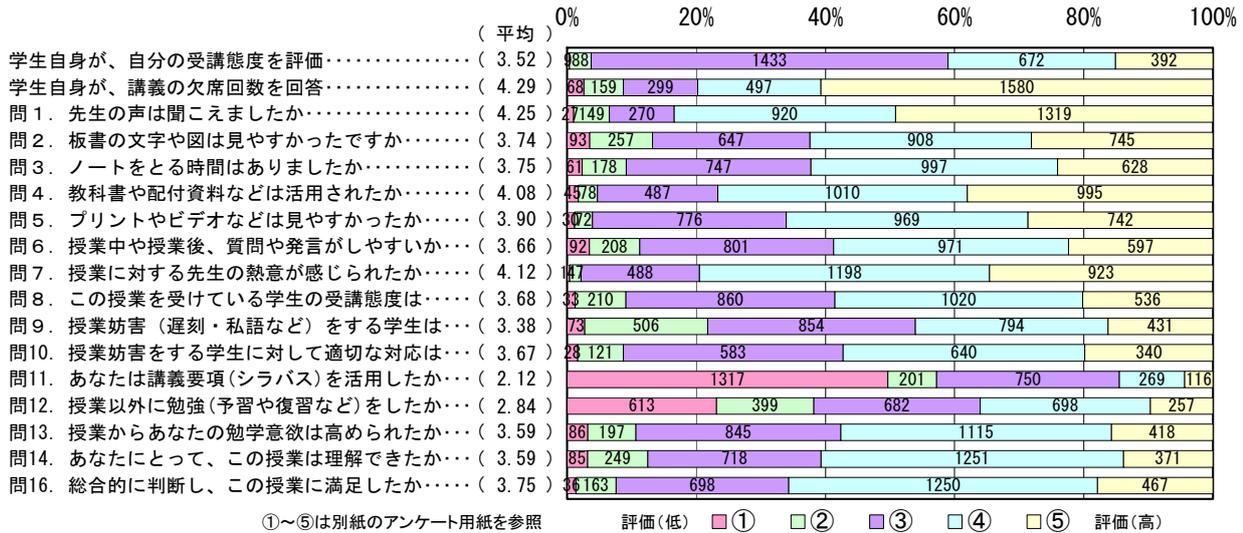
(2) 1年生科目と2年生科目の比較では、1年生の方が「内容が難しかった」「進み方がはやかった」「自分の基礎知識がない」「自分が勉強不足だった」と答えた学生が多い。

(3) 基礎科目・教養科目と専門科目・教職科目の比較では、専門科目・教職科目の方が「量が多かった」「内容が難しかった」「進み方がはやかった」と答えた学生が多い。

(松井良雄)

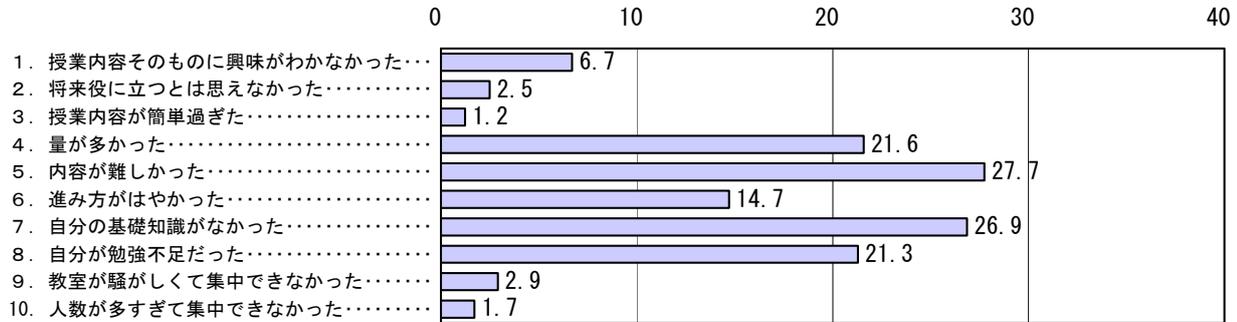
短期大学の全科目 (専攻科も含む)

アンケート集計結果 (数値は票数)



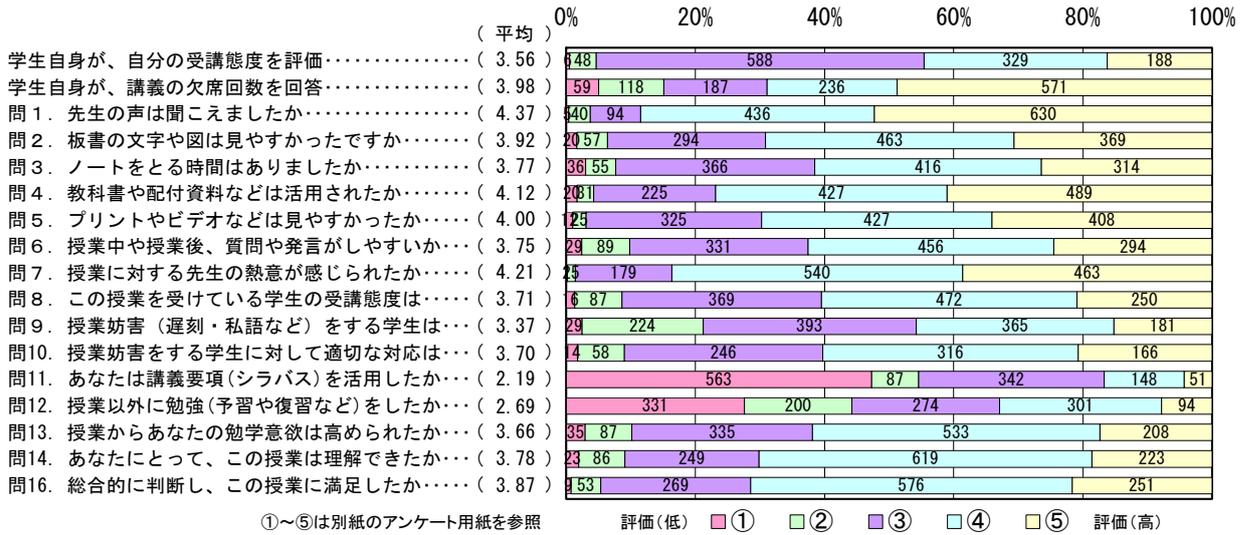
問 15. この授業について、当てはまる項目 (複数回答可)

受講学生数に対する割合 (%)

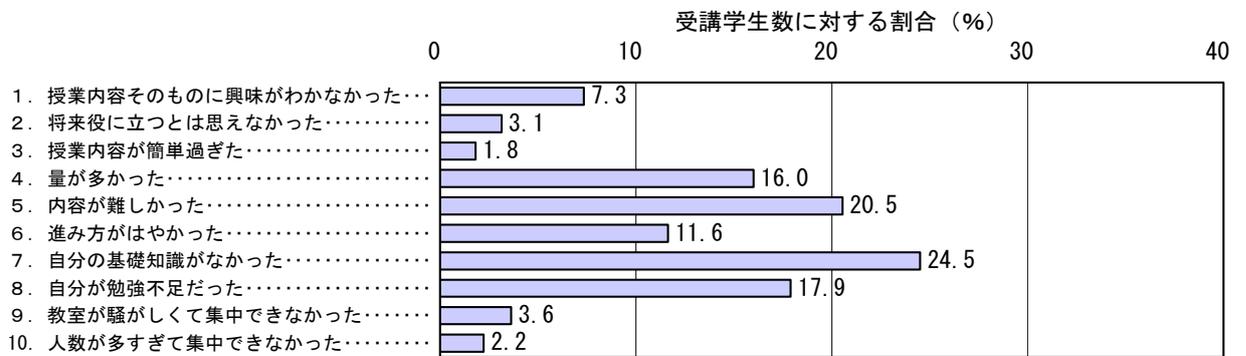


ライフデザイン総合学科

アンケート集計結果 (数値は票数)

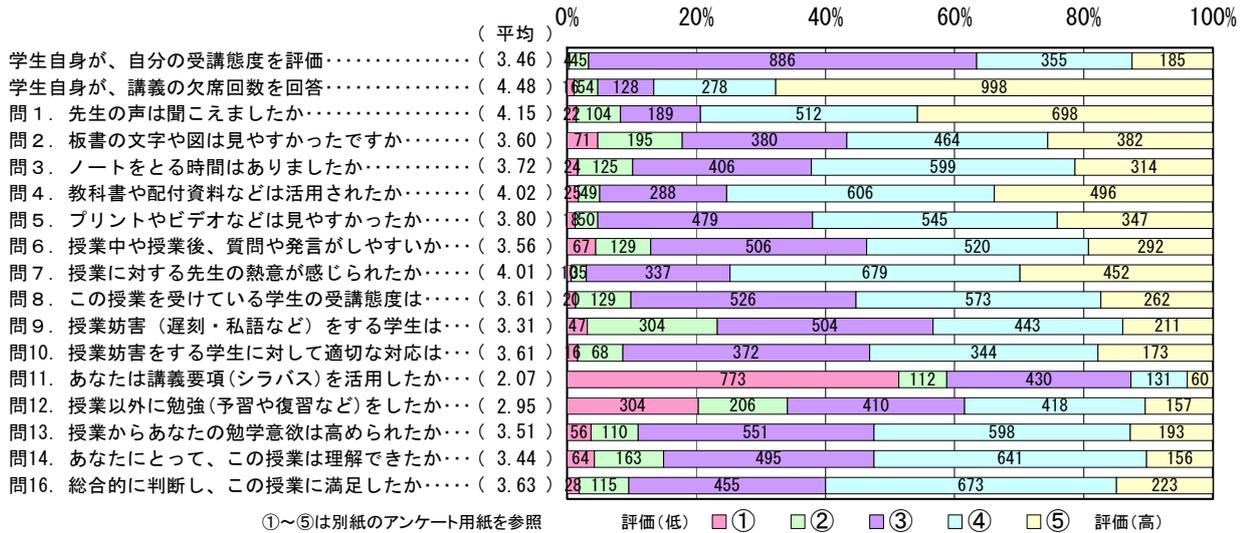


問15. この授業について、当てはまる項目 (複数回答可)



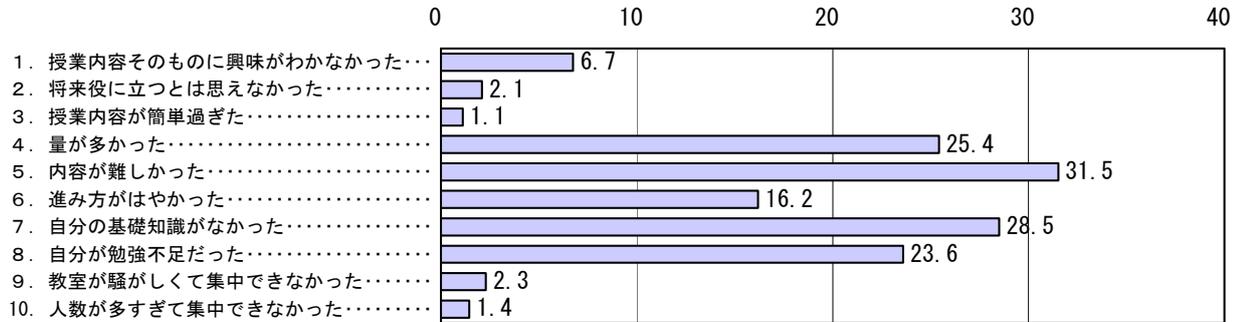
食物栄養学科
(専攻科は含まず)

アンケート集計結果 (数値は票数)



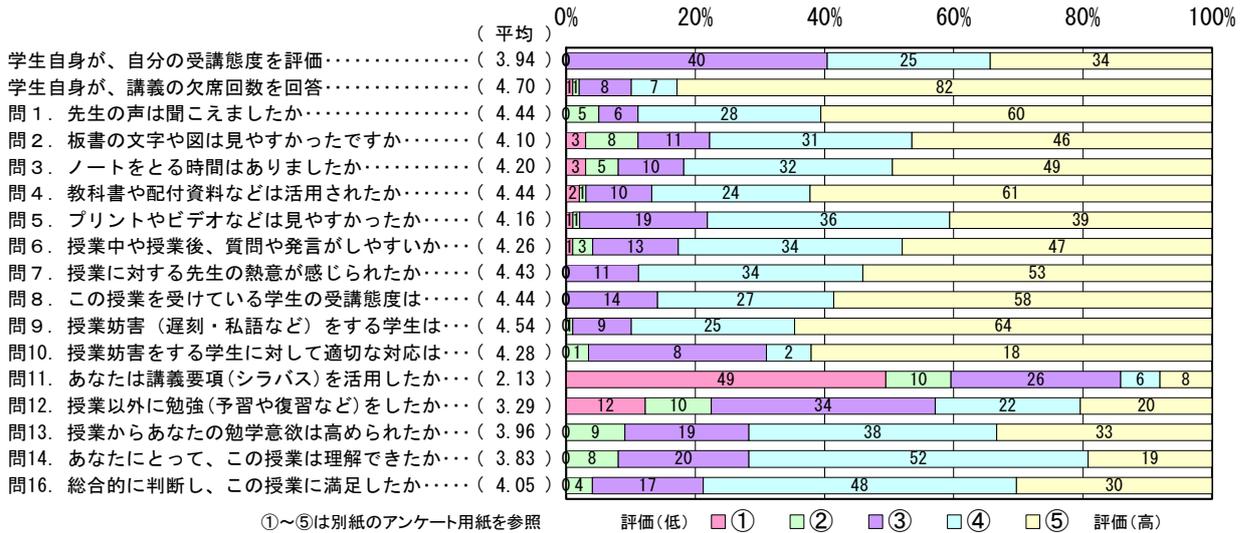
問15. この授業について、当てはまる項目 (複数回答可)

受講学生数に対する割合 (%)

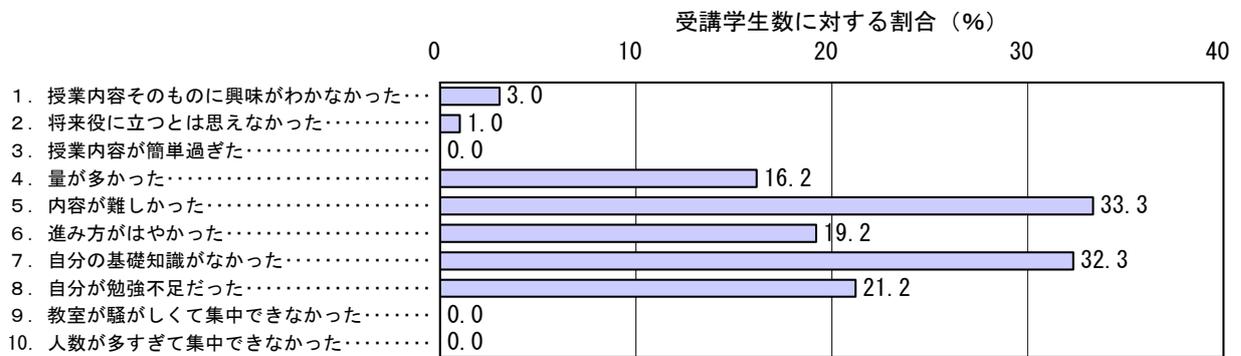


専攻科 食物栄養専攻

アンケート集計結果 (数値は票数)

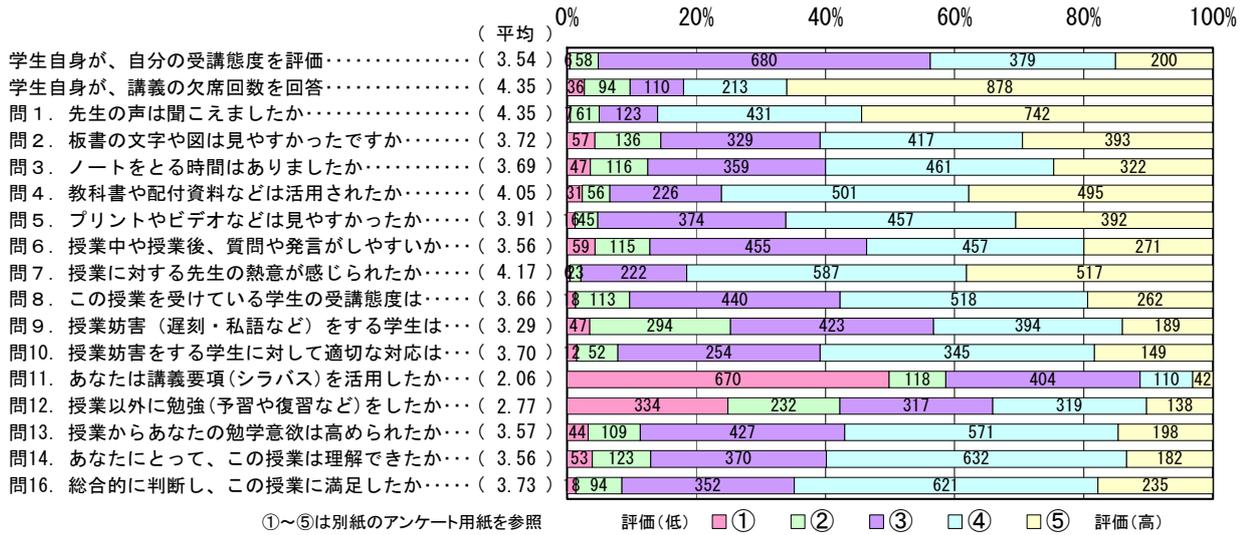


問15. この授業について、当てはまる項目 (複数回答可)



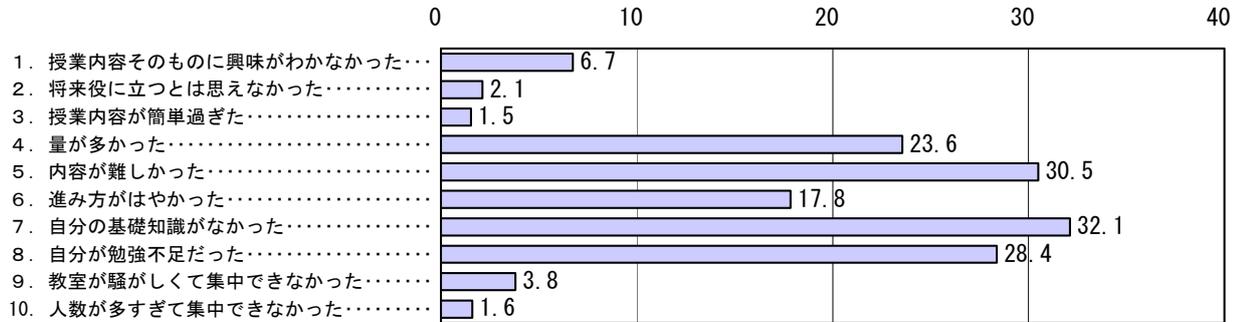
1年生科目
(専攻科は含まず)

アンケート集計結果 (数値は票数)



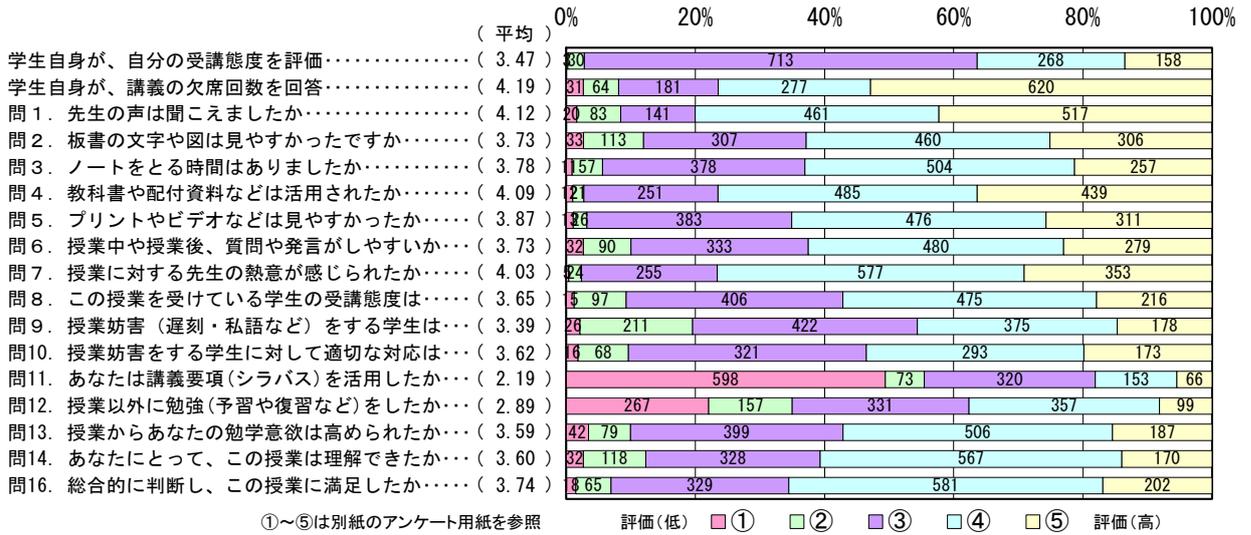
問15. この授業について、当てはまる項目(複数回答可)

受講学生数に対する割合(%)

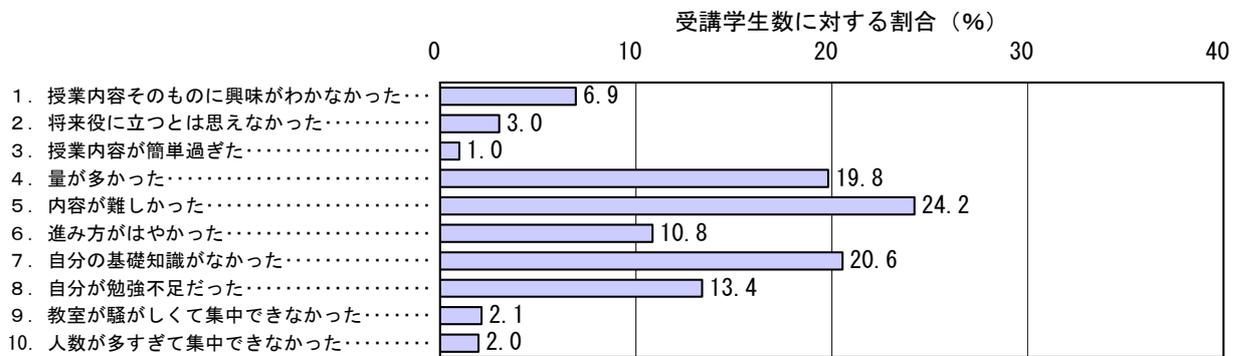


2年生科目
(専攻科は含まず)

アンケート集計結果 (数値は票数)

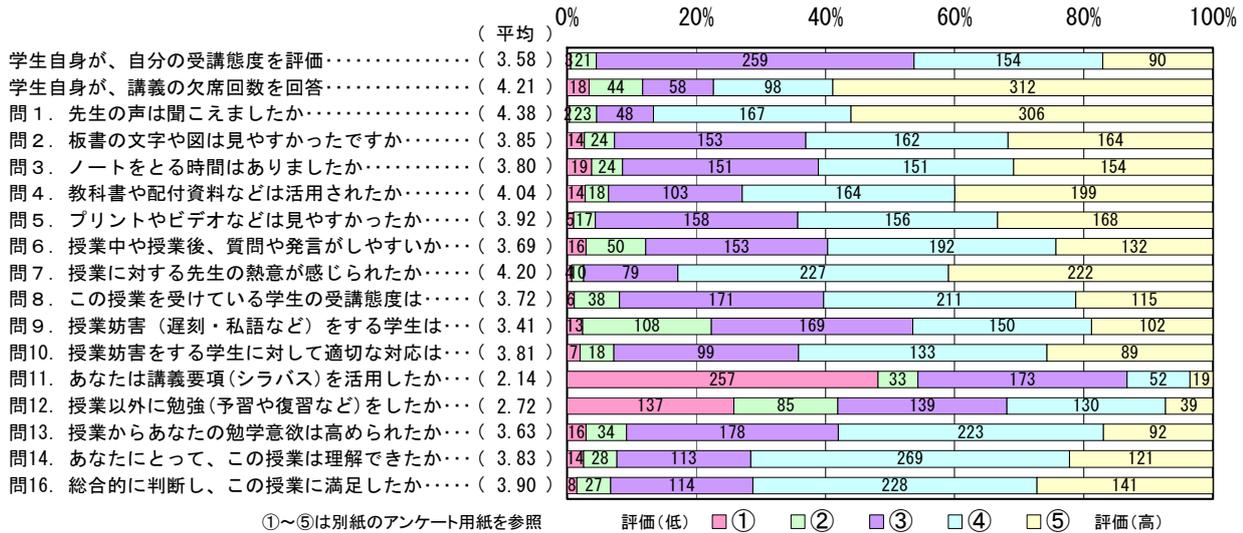


問15. この授業について、当てはまる項目 (複数回答可)



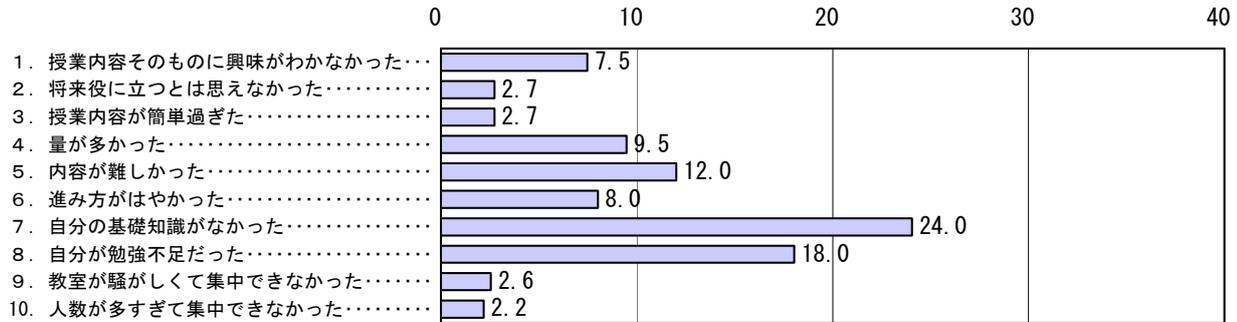
基礎科目
教養科目

アンケート集計結果（数値は票数）



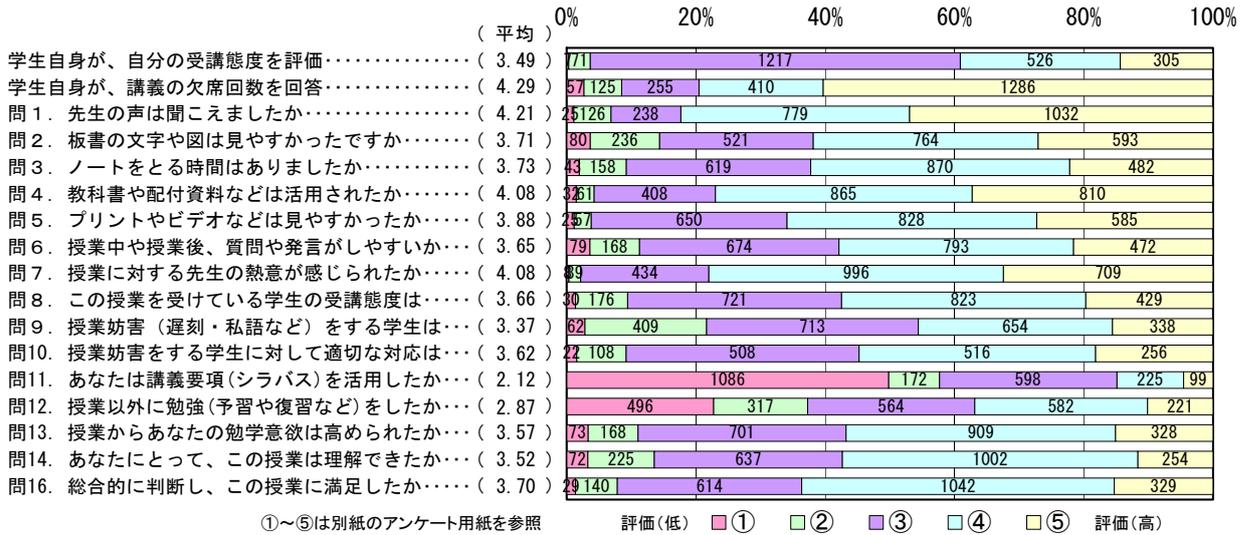
問15. この授業について、当てはまる項目（複数回答可）

受講学生数に対する割合（％）

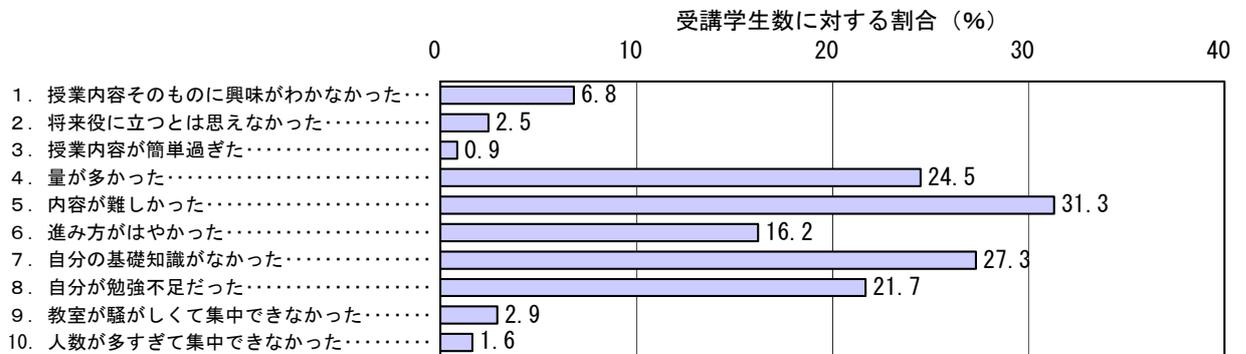


専門科目（専攻科も含む）
教職科目

アンケート集計結果（数値は票数）

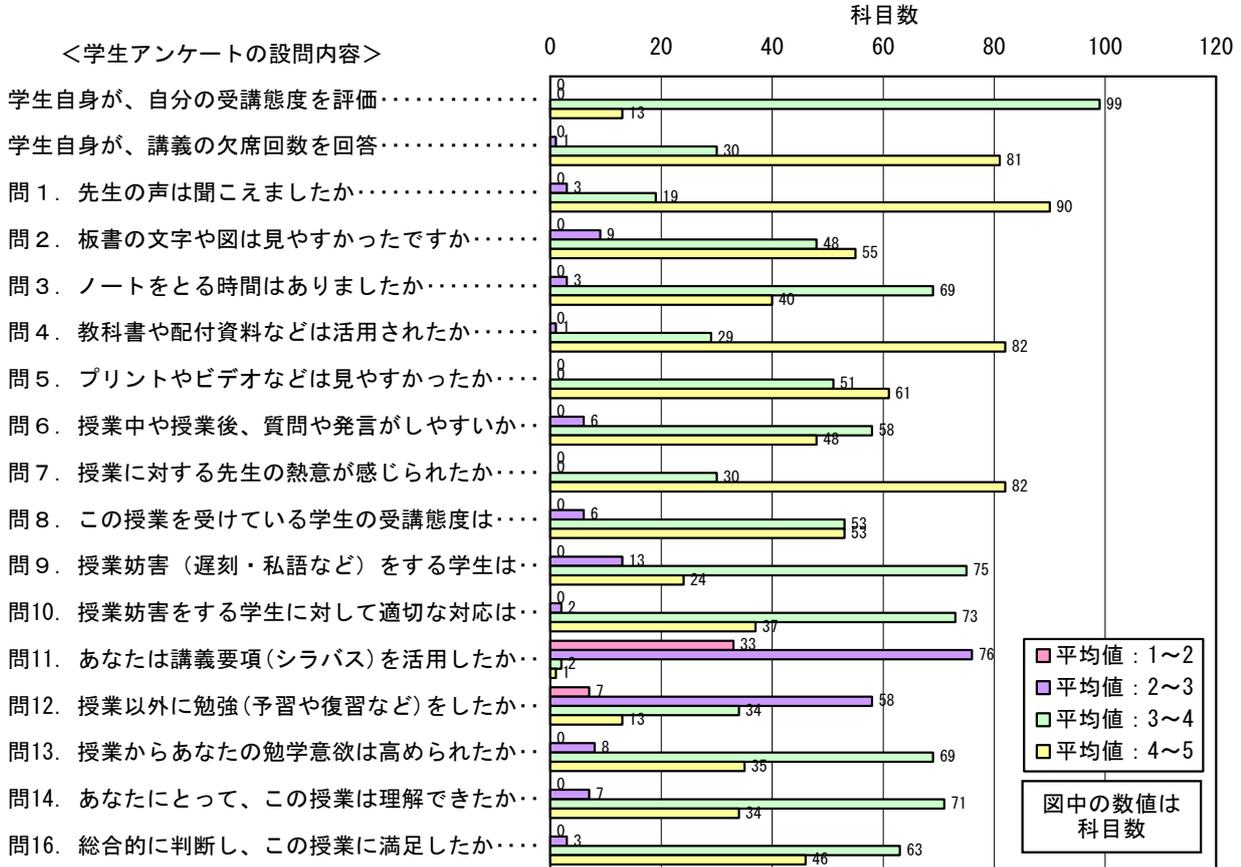


問15. この授業について、当てはまる項目（複数回答可）

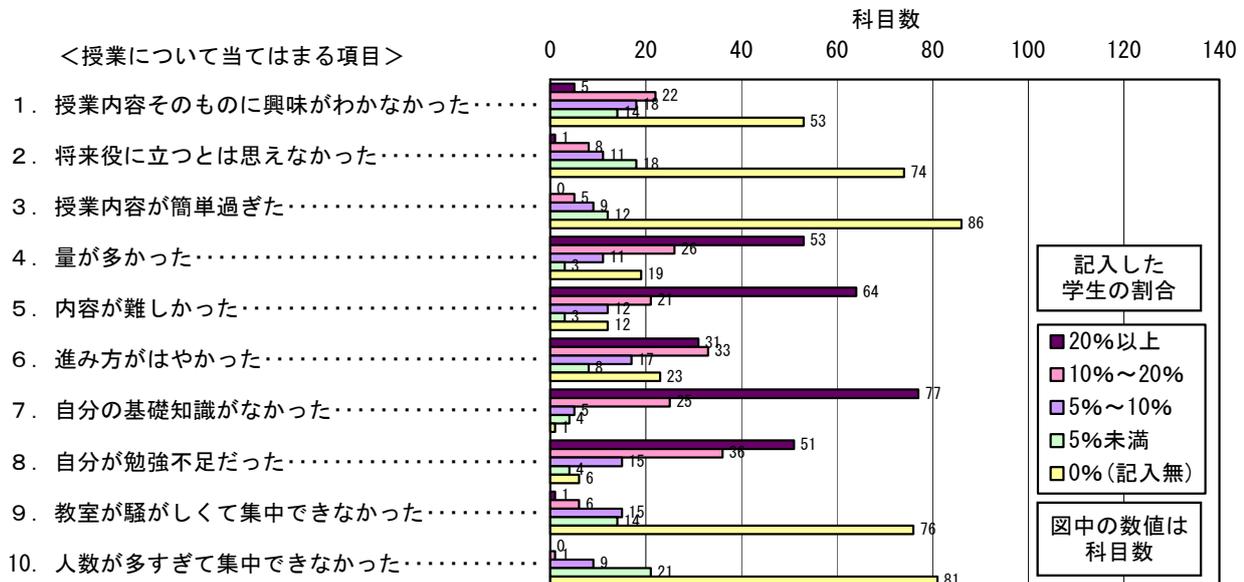


金沢学院短期大学 平成23年度前期 授業改善のための学生アンケート
 科目数の分布結果：短期大学の全科目数=112科目

「設問（問1～問16）」ごとの「平均値（1～5）」に対する科目数の分布



「授業について当てはまる項目」ごとの「記入した学生の割合」に対する科目数の分布
 参考：「記入した学生の割合」は、受講学生数に対する記入した学生の割合（%）



資料2

第10回FD研修会 参加者アンケート集計結果

第10回FD研修会参加者アンケート集計結果

1. 開催日・出席者数

開催日 : 平成23年9月15日(木)

出席者数 : 39名

内訳 : 短期大学教員23名、金沢学院職員7名、その他教員8名

2. 「学生相談の連携と協働ーネットワーク支援の事例ー」について、感想や質問等をご記入ください。

- ・短大では、2年間の学生支援ですが、極め細かく繋げていくための方法など勉強になった。また、学生支援GPの冊子は参考になった。
- ・保健管理センターと教職員の連携が上手くとれていると感じた。居場所作りについても参考になった。
- ・金沢大学の支援制度は優れているので知りたくなった。忙しい教員は学生の心理管理者(アドバイス教員)になるのは、研究や授業準備に損が出るのではないかと心配する。
- ・「学生の居場所」に関心がある。本学では、どこにあるのだろうか。1号館(教室はない)の4階~5階の階段でパンを食べている学生がいた。
- ・「ネットワーク」ということが少し理解できた。本学にも保健管理センターのような組織と場所があればよい。
- ・具体的な事例への言及が非常に参考になった。
- ・学生相談においては、大学生(四年間)と短大生(二年間)とでは、短大生の相談者が少ないように感じた。連携をとりながら学生を支援していくことが大事であると痛感した。
- ・事例と特徴の紹介でしたが、研究会のテーマである「対応」について学びたかった。個人情報に関連から一既には言えないと思いますが、最低限の基礎・基本を習得したい。
- ・多様化している学生の対応に教員として非常に参考になった。
- ・大変興味深かった。家庭問題が絡んだ問題の場合は聞き役に徹していますが、どの程度まで意見を言えばよいのか迷いがある。どのように対応すればよいか。
- ・実に様々な事例があり驚いた。大学教育も多様な対応が求められる事を再確認した。
- ・学生相談の実例など聞いて大変難しいと思った。と同時にもし、自分が何かの事情で学生から相談を受けることになった場合、自分はどう向き合えばよいのか、考える機会を得たので、有意義な研修だった。
- ・学生の居場所をつくることは大切だと思った。一人でいたい人。みんなでいたい人。一人で居やすい場所など。いろいろなパターンで居られる場所が作れるとよいと思った。
- ・具体的な事例で説明され、わかりやすかった。ただ、色々な事情を持つ学生が増えていることに対し、その対応が多様になっているのでなかなか難しい問題だと思う。

- ・金沢大学のネットワーク支援と学院の差に驚いた。色々な場面での支援を実践しているのが凄い。
- ・金沢大学では学生相談の連携体制がよくとられていると感じた。本学の話を知るとまだまだ連携がとれていないので、これからの課題であると感じた。

3. 「話の聴き方ーアクティブ・リスニングー」について、感想や質問等をご記入ください。

- ・実習を体験し、難しさがわかった。つなぐ重要性や学生支援の方法を参考にしたい。
- ・資料を読んで、理解したつもりでも、実践してみるとなかなか難しく、教員の立場からだとついつい指導になってしまうことも実感しました。
- ・今まで参加したFD研修会(大学)の中で、一番面白い研修会でした。参加者が「アクティブ」に参加できるチャンスがあったからです。
- ・とてもおもしろかった。これから自分のことはちょっと横に置いてプライベートな家族・友人の話もアクティブ・リスニングで対応してみたい。
- ・アクティブ・リスニングでは、相づち、内容の反射の繰り返しにほとんど終始。なかなか難しい。マイルドな話し方に説得力があった。
- ・具体的な事例の紹介が非常に参考になった。
- ・話を聴く→アクティブ・リスニングのことについて詳しく知ることができた。実際に話し手(相談者)、聞き手(面接者)を体験していかに難しいかを実感した。今まで学生に対してうまく対応できていたのかと反省した。
- ・悩みに対する答えを持っている学生には有効でしたが、答えを求めてきた学生には使い方が分かりませんでした。「就職したくなくてバイトでいいや。」「学校がつまらないから辞めたい」などの相談に対し、反射ではなく私たちは、共感の意を出さずにはっきりと正しい道を示さなければいけないと感じました。
- ・理解しているつもりだが、実際にとても難しいことがわかった。
- ・自分の聞き方の短所を知ることができて勉強になった。相手が自分で解決方法を導き出せるように話しをもっていけるのがよいと思うのだが……。下手をすると話が止まってしまいそうです。
- ・理論はわかるが実践するのは難しい。学生との会話にすぐに取り入れようとしても、会話がたどたどしくなり、逆に不信感を持たれそうだと感じた。相づちだけ、開放質問だけ等、出来そうなことから少しずつ活用していきたい。
- ・実際に役割を振り分けて体験してみるとアクティブ・リスニングの難しさがわかった。経験を積む必要があると実感した。
- ・実際にアクティブ・リスニングを行い、面談者を体験してみると、とても難しいことがわかった。相手の意見を用意して答えていくことは、話をしてみて初めて感じることもあり、とても勉強になった。

- ・ アクティブ・リスニングを実際に行ってみて、賛同するのではない。否定をしない。ということの難しさを感じた。日常での会話が如何に自己中心的に話しているかを感じた。日常会話を通じて練習していければよいと思う。
 - ・ 人との対話の難しさ、大事さが良くわかった。アクティブ・リスニングが出来るようになればよいと思う。
 - ・ アクティブ・リスニングをだけで会話を成り立たせることが難しかった。最近の学生はあまり会話をしない子が多いので、会話をしてくれる様になるまでの支援が大事なると思う。
 - ・ アクティブ・リスニングの演習はとても難しかった。自分の問題を自分で解決できる様にもっていくことが大切だと気づいた。これからの学生に対する接し方を見直したいと思う。
4. 第10回 FD 研修会では、「支援が必要な学生への対応」をテーマに実施しましたが、全体を通してのご意見・ご感想をご記入ください。
- ・ 有意義な研修会でした。時間が延長しましたが、今後の学生支援の取組みについて考えることができた。
 - ・ 一度はきちんと研修を受ける必要があると思っていたので、とてもよかった。
 - ・ 学生の話合い時に使いそうなことを勉強した気がする。有意義な時間だった。
 - ・ 予想よりはずっと成果があったと思う。
 - ・ 学生への対応について教員同士で相談し合える環境づくりが必要だと感じた。
 - ・ 今後の学生相談に役立てたい。
 - ・ 非常に重要なテーマです。
 - ・ 具体的なテーマだったので、今までの中で一番良かった。
 - ・ テーマに対して開催時間が足りない。
 - ・ 今回の研修は、この先、もっと深く考えられるよう、再度実践するべきだと思う。
 - ・ 支援が必要な学生が多くなっていると聞いたが、実際を知って、学生との対応が改めて難しいと感じた。対応する側も考えながら話さなければいけないと重く感じた。
 - ・ 学生との会話の方法など参考になることが多々あった。
 - ・ 支援が必要な学生が増えている中、今日の講演は参考になる点が多くありよかった。
5. 今後の FD 活動で取り上げてほしいことや話したい内容・テーマ等について、お答えください。
- ・ 本大学の支援制度について知りたい。
 - ・ このテーマでもっと深く学びたい。

【編集】 金沢学院短期大学 FD 委員会

【発行日】 2012 年 3 月 30 日